

( 熊本県立菊池農業高等学校 ) 令和6年度(2024年度)学校評価表

1 学校教育目標					
『生徒が輝き、地域をきらめかせる菊農教育の創造と実践』 「熊本の心」を基本理念とし、夢の懸け橋教育プラン、県立高等学校における教育指導の重点、学校安全・安心推進課取組の方向、体育保健課取組の方向、人権教育の推進に当たって、特別支援教育取組の方向、社会教育課取組の方向などを指針とし、豊かな人間性と社会の変化に主体的に対応できる生徒の育成を目指し、地域とともに活気に満ち溢れた学校づくりを目指す。					
2 本年度の重点目標					
『感動、感謝、思いやり、夢を育み未来を創る菊農生』～あらゆる可能性を見つめ一歩前へ～ 1 安全で安心な魅力ある学校づくりの実践 2 学習指導の充実 3 人権教育の充実 4 生徒指導の充実 5 進路指導の充実 6 農業教委育の充実 7 特別活動の充実					
3 自己評価総括表					
評価項目	評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
学校経営	目指す生徒像実現のために学校目標の周知を図るとともに、教育活動の着実な実践による活性化を図る。	学校の教育目標及び本年度の重点目標の周知を図る。	・全職員が共通認識のもと教育目標に向けて実践する。 ・保護者、生徒の学校教育目標認知度を生徒・保護者80%以上に高める。	B	・教育目標の認知度は十分でなかった。 ・学校魅力化に向けた発信としては、広報活動や教育活動の積極的に配信された。次年度は、日頃の学習活動や学校行事等をとおして更に認知度を上げる取組みを推進したい。
		社会で生き抜く力を持った生徒を育成する。併せて、生徒の自己肯定感を高める。	・基本的生活習慣を身に付け、夢の実現に向かって挑戦する生徒の育成。 ・本校における通級指導を充実させ全職員が理解し実践力を高める。	A	・朝読書の実施は、落ち着いて授業をスタートさせることに繋がっている。 ・「通級による指導」は、生徒の所感や教師の連携・協力体制も高まった。
	校長を中心とした指導体制のもと学校教育目標を実現する。	学校教育目標実現に向けた職員の意思統一と組織の活性化を図る。	・職員研修の充実と各部の連携推進及び学科間の協力体制を促進する。 ・新入生充足率が前年度を上回るよう魅力ある取組を行う。	A	・職員研修、生徒理解・特別支援教育推進委員会の開催、関係者による教科連絡会等により、情報の共有を図り、継続的かつ効果的な支援体制により、生徒へのスムーズな支援ができた。
		学校情報を分かりやすい内容で定期的に発信する。	・ホームページ掲載情報をタイムリーに更新する。(特に新着情報)	A	・「すぐーる」の活用は、保護者・職員への緊急連絡や行事連絡)各種行事の事前連絡等)等、旬な情報を混乱なく迅速に伝達することができた。
	業務改善、働き方改革を推進して、長時間労働の解消を行う。	・主任・主事・部長の意識改革を促し主体性を持ちボトムアップも意識した業務改善、働き方改革を実現する。	・毎週水曜日を18時までの完全退庁を実現する等、職場の超過勤務時間年平均(1人当)360時間、月30時間以内を実現する。 ・9割の職員が、前年度より効果的な業務改	B	・ICT活用による業務の効率化を推進した。12月末時点で年間超過勤務時間の職員一人当たりの平均時間は27時間(前年1月26時間)である。職員の業務改善に積極的働きかけているが農場管理上、困難な状況もある。全職員が意識をもち取り組んできた。

			善の工夫に取り組むことで実感できる。		次年度は更なる改善に取り組んでいく。年休取得に関しては、申請しやすい職場の環境作りはできている。
学力向上	生徒一人ひとりを理解し、授業の工夫・改善と個別指導を徹底(学びのUD化)する。	生徒の学習意欲を高め、もっと知りたくなる授業を開く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が「わかる・できる・もっと知りたい」を実感する授業を開く。</li> <li>学びのUD化に努める。</li> <li>授業実施者がICTを駆使した授業を開くことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育環境の工夫、ルールの明確化、視覚的支援の充実を図る。</li> <li>ICT機器に関する職員研修を充実させ、授業でのICT機器活用率を高める。</li> </ul>	A <ul style="list-style-type: none"> <li>本校に来校されるICT支援員に機器の使い方等を学ぶ教職員が多くいた。また、ICT機器を活用した授業も多くなり、他校のICT機器を活用した研究授業や公開授業を参考に教師一人ひとりが自己研鑽に努めている。</li> </ul>
		習熟度に合わせた授業を開く、わかる喜びを感じる授業を実践する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>習熟度別に授業内容を組立て、「基礎学力」および「生きる力」を身につけさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>欠点保持者及び希望する生徒等に対し、学びなおしを行う場を定期考査前に設定する。</li> </ul>	A <ul style="list-style-type: none"> <li>学年の先生方を中心に丁寧な指導を行っていただいた。</li> <li>中学校学習内容について学びなおしを行う場面の時間を増やし、基礎基本の定着に努めた。</li> </ul>
	教職員と生徒が一体となつた授業(公開授業の実施、及びグループ学習の導入)を実施する。	生徒の興味関心を引き付ける授業の展開を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>学科・教科別に研究授業(アクティブラーニングを重視した授業ICTを活用し、かつUD化を意識した授業の展開)による資質向上を図る。</li> <li>授業の公開による教職員の授業力及び探究心の向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間をとおして、統一したテーマをもとに、各学科、教科ごとに研究授業を実施し、授業改善に生かす。</li> </ul>	A <ul style="list-style-type: none"> <li>年間を通して、「学びのUD化」、「ICT活用」をテーマに3名の先生方が研究授業を行った。合評会を各教科で行い、積極的な授業改善ができた。</li> </ul>
キャリア教育(進路指導)	キャリア教育の充実	進路意識の高揚 体験活動の充実 進路情報の提供	農業経営者育成を中心とした職業意識を高揚させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>先進農家視察や現場実習を複数回実施</li> <li>進路ガイダンス等を年1回以上実施</li> <li>オンラインも活用した進路情報閲覧環境を改善する。</li> </ul>	B <ul style="list-style-type: none"> <li>研究授業の様子を動画撮影し、教職員がいつでも視聴できるようし、教職員相互の「学び合い期間」を設定した。公開授業週間では、本校保護者の多くの参加があった。</li> </ul>
	就職指導の充実	職業意識の高揚 就職内定率の向上 早期離職防止	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャリアサポート一面談を実施する。</li> <li>希望就職内定率100%を達成する。</li> <li>早期離職ゼロを目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路適性検査を年1回以上実施</li> <li>キャリアサポート一面談を実施する。</li> <li>ガイダンスや内定者指導を実施する。</li> <li>企業の情報を収集する。</li> <li>配慮を要する生徒の支援におけるハローワークと連携する。</li> </ul>	B <ul style="list-style-type: none"> <li>進路適性検査は年1回以上実施できた。</li> <li>就職希望者全員にキャリアサポート一面談を実施できた。</li> <li>ガイダンスは実施できた。内定者指導は個別に実施した。</li> <li>企業情報収集やハローワークとの連携は例年通り実施できた。</li> </ul>

	進学指導の充実	多様な進路希望実現に向けた支援体制の充実。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学志望者の早期に把握し指導を開始する。</li> <li>・農業大学校進学者10名を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路希望の調査を年2回実施する。</li> <li>・大学志望者の主事による面談の実施と、所属学科と連携した指導を早期に開始する。</li> <li>・農業大学校の説明会の参加と進学指導を早期に開始する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路希望調査は年2回実施できた。</li> <li>・大学志望者には早期から面談や個別指導を実施した。</li> <li>・農業大学校の説明会には参加できた。指導も早期に開始し、受験した8名全員が合格できた。</li> </ul>
生徒指導	豊かな心を育む指導の実践に取組む。	生徒会、農業クラブを中心とした自主的活動による活性化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会、農業クラブを中心とした生徒の自主活動や部活動、ボランティア・各種委員会活動の促進を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒企画による各種行事や委員会活動をとおした自治活動力の育成を図る。</li> <li>・ボランティア活動への参加を推進し、社会に貢献する心を育てる。</li> <li>・部活動の精選及び活性化に努める。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症5類移行2年目で手探りだった菊農フェスタ等の行事がかなり充実してきた。一方で地域の方の対応等課題も明確になった。ボランティア活動にも積極的な参加が見られた。</li> <li>・部活動について、活性化のためには精選が急務である。</li> </ul>
		農業教育における動植物の育成管理を通して豊かな心の醸成と、中途退学者の減少を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仲間との協力及び動植物の育成管理を通して責任感を育成すると共に、他者や周囲に配慮ができる心の醸成を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仲間と協力して作業をすることで責任と周囲への思いやりの心を育てる。</li> <li>・動植物との触れ合いを通して、命を大切にする豊かな心と互いに協力し、互いを尊重する心を育成する。</li> <li>・上記の方策については、学校評価アンケートにて生徒の満足度90%以上とする。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの生徒が農業実習に真摯に取り組み、仲間との協働や動植物の管理を通して命の大切さや互いを認め思いやる心を育んでいる。</li> <li>・本校に入学して(させて)良かったと答えた生徒、保護者はいずれも3.0を超えており満足度の高さがうかがえる。授業への興味関心度も生徒、保護者共に向いている。</li> </ul>
	規範意識を育てると共に安全教育の徹底に取組む。	基本的生活習慣の確立と規則やマナーを遵守する意識を高める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気持ち良い挨拶、制服の着こなし、時間を守る、貴重品の自己管理等、社会人となるための基礎基本を徹底指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登校指導のなかで行う挨拶・時間厳</li> <li>・身だしなみに関する指導を通して、生徒の規範意識を高める。</li> <li>・身だしなみ(服装・頭髪)については、社会情勢に応じた指導体制を整える等、全職員で統一した共通認識を持つ。</li> <li>・貴重品袋を活用した盗難防止に努めると共に、貴重品の自己管理の徹底を啓発する。</li> <li>・生徒、保護者向けのSNS教育を実施し、トラブルの未然防止に努める。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活の規律を守り、基本的生活習慣が身についていると答えた生徒は昨年同様3.1を維持しているが、校則の見直しを積極的に進め、生徒・保護者・職員にとってより良い学校を目指す。</li> <li>・防寒着、頭髪、服装等社会情勢に応じた指導体制に課題があり、職員が共通認識を持って指導しづらい状況になっている。</li> <li>・盗難の相談はなかったが実習なども含めた管理の難しさもあり、今一度管理と貴重品の自己管理の徹底を啓発したい。</li> <li>・SNSを介した人間関係のトラブルが数件あった。生徒向けに菊池警察署から情報モラルの講演をしていただいた。</li> </ul>

		交通事故や犯罪等に遭わないために、意識の高揚を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通ルールの遵守や交通事故防止等をはじめとする安全教育指導を徹底する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全職員による登校指導を各学期に1回実施し、交通安全意識を高める。</li> <li>・通学方法別での交通安全指導、外部講師による交通講話を通して交通安全に関する知識と技術の向上を図り、交通事故防止につなげる。</li> <li>・防犯対策として、二重ロック点検・施錠指導を実施する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度当初の通学方法別集会、交通安全教育 LHR、一斉登校指導により、交通安全意識向上を図ったが、1年生に軽微な事故が多く見られた。</li> <li>・今年度も自転車置き場での自転車へのイタズラが発生した。施錠の呼びかけとともにモラルの向上へ啓発が必要である。次年度から通学条件にヘルメット着用を取り入れた。</li> </ul>
人権教育の推進	豊かな人権感覚をもつ生徒の育成に取組む。	相手の立場や心情を理解できる生徒の育成を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権感覚を高め、心豊かな生徒の育成に取組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学期に1回の人権 LHRをはじめ様々な授業を通して人権感覚を育む。</li> <li>・人権講話や人権講演、人権集会などを捉えて人権の大切さを伝える。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学期に1回人権 LHR を実施することができた。</li> <li>・講演会では「平和学習」で花房飛行場跡の話を聞くことができた。</li> <li>・「人権子ども集会」を全校生徒で観聴し、様々な差別について学ぶ機会を持つことで人権感覚を高めることができた。</li> </ul>
		職員の人権感覚を豊かにする研修を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎学期に配慮をする生徒等に関する研修を実施することで、生徒に対する人権感覚を磨く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権教育推進委員会を学期に1回行い共通認識と共通実践を図る。</li> <li>・年間を通して2回の生徒理解研修を実施し、全職員で課題を抱える生徒の状況を把握し、共通理解を図る。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度初めの生徒理解研修をはじめ、研修を適宜行うことで、生徒の特性や生活背景を全職員で共有し、生徒への理解を深め、生徒の人権を大切にする指導ができるように努めた。</li> <li>・全職員による「レポート研修」を今年度も3月に実施予定である。</li> </ul>
	命を大切にする心の育成に取組む。	専門教育を通して命を大切にする心の育成に取組む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分や他者の命を大切にすることのできる生徒を育てる。本校の人権教育が相手の立場に立つ生徒の育成に繋がっていると実感する生徒を80%以上にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権委員会を中心に行なう「いじめ撲滅宣言」の読み上げ、クラス掲示を行う等、感謝の心と他者を認める心を意識させる。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は人権委員会の活性化を図るために、2か月に1回人権委員会を実施し人権について深く学ぶ機会を設けた。人権委員への研修を行うことで、そこからクラスへの啓発活動へつなぐことができた。</li> </ul>
いじめの防止等	命を大切にする、いじめをしない、いじめ防止に取り組む生徒の育成に取組む。	生命尊重の意識と自尊感情の確立を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他者を思いやる心の醸成だけではなく、自己肯定感を高めることができる生徒を育てる。</li> <li>・本校はいじめの防止をはじめ、人権教育の姿勢を基本に生徒への対応が行われていると実感する生徒を、80%以上にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・LHRや日常の授業・実習で、命を育て、命をいただくことで生きられていることを学ぶ。</li> <li>・特に、専門教育を通して、他者を思いやる心、協働する心を育成する。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学科の学習や実習を通して専門性を高めるとともに、命の大切さを学んでいる。さらに自己肯定感をたかめる教育活動を目指す。</li> <li>・いじめは数件確認しているが、先生方の早期対応の成果が表れており、重大事態は発生していない。今後も丁寧な対応、早期の対応を心掛ける。</li> </ul>
		いじめ防止に積極的に取り組むことできる生徒を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめの未然防止や早期発見、SNS等のトラブル防止に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・LHR等で人権問題を取り上げ、いじめや差別をなくす生徒の育成と正しい言動ができる生徒の指導を行う。</li> <li>・日頃から担任を中心個人面談の機</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学期アンケートによる実態把握および個人面談を実施し、いじめの未然防止、早期発見・対応につながっている。</li> <li>・担当組織で情報共有を図ることで組織的な対応につながっている。それらが</li> </ul>

			会を設けるなど、生徒の日頃の悩みを把握し、いじめの未然防止、早期の発見に努める。		早期解決につながり重大事態は発生していない。
専門教育	地域と連携した農業教育の推進に取組む。	スマート農業・GAP教育等を通して、地域と連携した農業教育の推進に取り組み、農業経営者を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>外部講師等を活用して、就農教育の推進と地域に開かれた農場の展開に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>農場を地域に開かれた学校の拠点とし、農業の新しい技術や情報を校外に積極的に発信する。</li> <li>5年後を見据えた農場改革をスタートさせる。</li> </ul>	B <ul style="list-style-type: none"> <li>JA菊池まんまキッズスクール、くまもと農業フェア、菊池市スクールフェスタ、KSH報告会等、多くのイベントにて学校PRができる。</li> <li>KDSドローン教室や農業経営者育成研修会、火の国の翼(愛知県高校生交流)等、新たな企画で就農教育を展開できた。</li> <li>検討の中で施設設備の老朽化、スマート農業への対応等、農場経営の課題が多い。</li> </ul>
		農業教育により自信と誇りを持った農業経営者と関連産業従事者を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>農場を生徒の学習発表の場と位置づけ、農業教育に対する自信と誇りを育む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習成果を積極的に発表し、身についた専門性を将来に活かす進路指導を実践していく。</li> <li>蒼生会(同窓会)等、優秀な農業経営者との交流を深め、農業に夢を持たせる。</li> </ul>	A <ul style="list-style-type: none"> <li>即就農者が1名、農業法人や農家等への雇用就農、農業関係進学者も増加傾向にある。</li> <li>農業クラブでは、農業鑑定競技で全国大会優秀賞を受賞した他、家畜審査競技や農業鑑定競技の県大会運営を成功に導くなど、多くの生徒が活躍した。</li> <li>農業技術検定において2級2名合格した。</li> <li>蒼生会出前授業等、本校独自の就農プログラムの実施ができた。</li> </ul>
環境教育	環境保全活動や環境問題に積極的に取組む。	学校版環境ISOに取り組むと共に、農業を通して環境整備に意欲的に取組む態度を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境にやさしい農業教育を実践し、環境保全や環境問題への関心を高め意識的に取り組む態度を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校版ISOの認定校として、校内外のクリーン活動を充実する。</li> <li>地域(主に管内の公的機関を中心)を含めた花いっぱい運動を展開する。</li> </ul>	A <ul style="list-style-type: none"> <li>学校版ISOの認定校として、校内外のクリーン活動を実施した。</li> <li>地域(主に管内の公的機関等)を含めた花いっぱい運動を専門授業活用で展開した。</li> </ul>
		美しい学校づくりをテーマに環境美化活動に取組む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境美化活動を実践し、美しい学習環境の中で豊かな感性を育む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>美化コンクールを実施する。</li> <li>美化委員を中心に学校周辺の美化活動を年5~6回行う。</li> <li>ゴミの分別を進め、環境に配慮できる優しい生徒を育成する。</li> </ul>	A <ul style="list-style-type: none"> <li>美化コンクールを毎学期実施し、学習環境・意識の啓蒙活動へ繋げた。</li> <li>美化委員を中心に学校周辺の美化活動を毎学期実施し環境美化意識の高揚に努めた。</li> <li>ゴミの分別を進め、環境に配慮できる優しい生徒を育成できた。</li> </ul>
地域連携(CS)	育友会との積極的な連携・協力に取組む。	円滑な学校運営のために情報提供に努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者へ学校行事や生徒の学習の様子等の情報提供を行い、本校の教育活動への理解と協力を得る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年3回の育友会会報の作成に協力し、本校のPRに努める。</li> <li>HPや「すぐーる」を活用して育友会活動や学校行事の連絡の周知徹底に努める。</li> </ul>	A <ul style="list-style-type: none"> <li>会報は2回発行した。多くの写真を用いて保護者に学校行事の様子や育友会活動について情報を提供することができた。</li> <li>ホームページを活用して生徒や育友会の活動状況を広く発信した。</li> </ul>

	PTA活動のさらなる活性化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の学校行事への出席率向上を図る。</li> <li>・必要に応じて規約の見直しや組織改編等を検討して、効率的で有意義な育友会活動に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者へ行事等の早めの情報提供に努め、保護者と学校の協働関係を図る。</li> <li>・育友会のクラス役員の仕事内容を分担することで、負担感を軽減して参加しやすい活動を行う。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「すぐーる」を活用し、学校行事や育友会活動に関する連絡や募集など情報提供を広く行うことができた。保護者の学校行事への出席率の向上が課題である。</li> </ul>
	学校運営協議会を通して、地域と連携協力体制を確立する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自主的に学び、考え、行動できる生徒の育成に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア活動などの地域の活動をとおして、地域住民とコミュニケーションを深める。</li> <li>・学校運営協議会の充実に向けた取組を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の美化作業や子ども食堂運営等に積極的に参加する。</li> <li>・学校行事や農産物販売情報等をホームページや広報誌等で情報を発信、地域住民の来校のきっかけ作りを行う。</li> <li>・学校運営協議会委員への積極的な学校行事への案内を行い、関係者との協力体制を強化する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域や関係機関から意見やアドバイスをいただきながら、学校教育に対する地域との連携を強化することができた。</li> <li>・菊農フェスタでは地域から多くの来場があり、農産物や食品加工品の販売も大盛況であった。</li> <li>・1日福祉体験（保育園・介護施設等）、まんまキッズスクール、水あかりの制作、献血、プラチナ「森の学校・きくち」ボランティアなど、多くの活動に参加了。</li> </ul>

#### 4 学校関係者評価

- ・自主性と主体性について、これからは自分で考える主体性が重要になってくる。
- ・地域連携は、10年前も今も変わらないのは、子供と向き合うのに先生だけでは限界がある。外部の知恵をかりる。SC、SSWの活用をその都度頻繁に依頼して、その悲鳴を届けて変えていくことも必要である。
- ・中学校の「4割問題」4割しか学力についいけてない。その6割の子供が地方に行っていることは、教員の疲弊に繋がっている。学校現状を言つていかなければならない。
- ・本校の学校評価アンケートを見ると、自己肯定感が低い気がする。先日、生活文化科でムラサキソウの外部講師による授業があった。多様な生徒に目を向けさせるのは難しい。生徒の中に、興味のない授業に付き合っている感も感じた。やってみたいと思って手を挙げた生徒が少なかった。生徒とのコミュニケーションが大事だが、理解を求める努力が必要である。
- ・12月にあり方検討会の中で話を聞くと焦点が定まっていない。学校や生徒の現状を教育行政へしっかりと伝えることが大事。
- ・学校行事に対して生徒の中には、やらされ感を感じている。学校行事等で子供たちが本気でやりたいことをやらせてあげたい。
- ・育友会と生徒会・農クの生徒と意見交換会をした。
- ・生徒会や農業クラブなど先生方主導（ありき）に感じる。生徒ができないのでなくやり方がわからない、ダメ出ししてやる気を下げているのでは。農業教育のやり方を生徒が主体的にできるようになれば。自分は若いころ4Hクラブに入っていて、経験が活きた。高校時代は色んなことが主体的にできた。
- ・コロナ禍明けで、これまで生徒は何もしてきていないので、生徒に投げかけていただきたい。社会に出たとき企画する力をつけさせることも必要かと思います。
- ・ある私立高校では、職員ではなく、生徒が主体となってやっていた。菊農フェスタでは、生徒ファーストの内容つくりをお願いしたい。
- ・DX・ICT化に人の心がついて行っていない。早い段階に身に付けてほしい。使い方を1つ間違えれば大きな問題となり、取り返しのきかないことにもつながる。私たちの現場では、救急・応急等の処置など様々な情報が飛び交っているのが現状です。

## 5 総合評価

- ・学校教育目標や本年度の重点目標の実現のために全職員で取り組み、職員の学校評価アンケートの結果が10項目のうち8項目で上昇した。前期選抜・後期選抜の出願状況は、前年度と比べ、若干少なくなった。
- ・学習用コンピュータ端末の活用を推進し、データ通信による生徒と学校とのコミュニケーションツールとして職員が使用できるようになり、授業のICT活用を柱とした生徒が主体的な学びに繋がる授業改善の取組が浸透し、タブレット端末の効果的な利用が見られる。
- ・3年間を見通した計画的なキャリア教育を推進する事で、幅広い生徒の目標に対応した進路指導ができた。就職に関してはTSMCの進出により、県内企業数の増加に伴い新規企業の求人件数も増えた。好調な求人環境もあり、県内就職率の向上をはじめ、ある程度の成果が得られた。進学指導に関しても、大学への合格実績等にも繋がった。
- ・農業自営における即就農者が1名、農業法人や農家等への雇用就農も年々増加傾向にある。就農支援会議、就農教育推進校事業、愛知県農業関係高校との交流会、卒業生講話等の就農支援により農業経営者、関連産業従事者の増加に直結する取り組みにより、様々な分野で成果があった。
- ・通級による指導（LS：ライフスキル）本年度は、全職員に参加をお願いし、参加したことでの支援の在り方のスキルが向上した。生徒は、通常の学級では出せない思いや感情を表現できることで、自己発見や自己解放につながり変化や成長も伺え、3年生は見ることができた。
- ・いじめ防止や人権教育については生徒理解のための職員研修等を行い、配慮を必要とする生徒に関しての共通理解に努め、関係部署との連携を強化し、早期予防、早期発見、早期対応することができた。生徒が抱える課題も複雑化してきているなか、県教委や外部専門家と連携し個別に対応することができた。

## 6 次年度への課題・改善方策

- ・豊かな人間性と社会の変化に主体的に対応できる生徒の育成を目指し、地域とともに活気に満ち溢れた学校づくりを目指し、スクールミッションやKSH、総合的な探究の時間など高校の魅力化を図り、生徒募集に繋げる。その実現に向けて生徒が主体的な学びに繋がり、今後も本校の特色を生かした取組みを推進する。
- ・ICT活用した授業形態に大きく変革していく中で授業の中で、生徒が主体的な学習活動を効果的にするためには職員のICT活用能力を更に向上させる。
- ・農場各部門においては、生徒の実情や生徒数に応じて規模の縮小や管理の在り方を見直し、働き方改革の推進も含め、教育課程や生徒数に応じた農場規模を検討していく。
- ・本校の主軸である農業後継者育成と寮教育を十分に生かした進路実現に向けて、国公立大進学希望者の合格をはじめ多様な進路保障にも、各部と連携した計画的な支援を進める。
- ・人権教育の視点から社会的規範意識の醸成について、全職員の共通認識・理解のもと、学校生活全般において積極的に生徒と関わり、組織的に課題解決に向けて取り組む。
- ・学校の取組や生徒の活動等、魅力発信を更に強化し、地域に信頼される学校づくりに努める。
- ・教職員の不祥事防止に向けた高い危機管理意識を持ち、更なる徹底を図る。
- ・職員負担を軽減し、校務の効率化、情報の共有化の推進、職場の環境整備を進める。